

業種	医療機関
活用分野	医療支援、患者への情報提供
テクノロジー	タブレット端末 (iPad)

問診票記入から症状・治療説明まで “患者参加型医療”にiPadをフル活用

1日最高300人超の来院者を数える習志野台整形外科内科では、「iPad」の国内発売を境に、院内が様変わりした。待合室では「iPad問診票」に入力する初診患者、さらに診察室やリハビリ室でiPadアプリ「IC動画HD」を使って患者に説明を行うスタッフの姿が見られるようになった。

これらは「患者参加型医療」の実現を目指す院長の宮川一郎氏が、医師と患者のコミュニケーション強化、分かりやすい医療情報の提供などを目的に、考案・開発した仕組みだ。

問診票から電子カルテへの 転記作業がゼロに

宮川氏は、米国で「iPad」が発売



患者自らがiPadで問診票を入力。データ化されているので医師の転記作業が不要になる

された時点で「これは医療に使える」と直感し、早々に「iPad問診票」の開発に着手。約1年後の2010年5月、国内発売初日に数台を購入して即運用を開始した。

利用者の意見も汲みながら使い勝手などの修正を逐次行い、2012年4月のバージョンアップから新規患者全員を利用対象に導入を行った。

患者自身が入力した問診票データは、無線LANで院内のサーバに吸い上げた後、電子カルテシステムにも転送され、そのままカルテの元データとして活用されている。これにより、紙の問診票から電子カルテへの転記——1人あたり2～5分、1日の総計で30分～1時間半程度にもなる作業が不要になり、「その分、診察時に患者さんと顔を合わせてコミュニケーションを取る時間が増えました」と宮川氏。さらに、iPad問診票は各画面で入力が完了しないとアラートが出て先に進めないため、重要情報の記載漏れも防止できている。



習志野台整形外科内科
院長
宮川 一郎氏

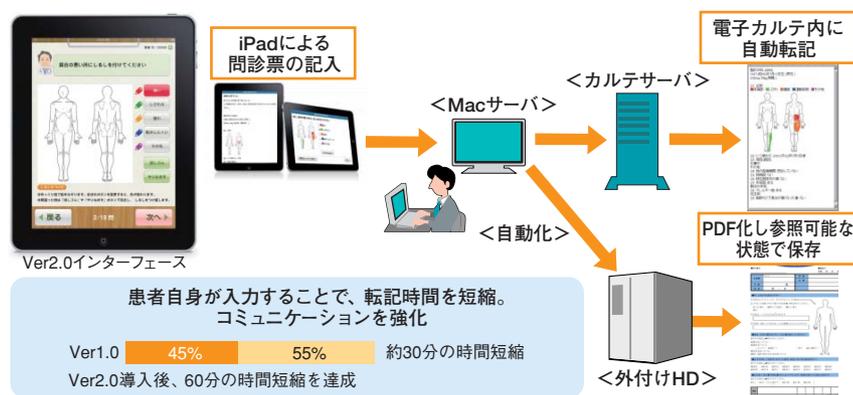
患者説明用の3D動画を公開 CGの新規制作も自ら監修

他方、患者説明用iPadアプリとして開発された「IC動画HD」は、クラウド上に集めた疾患病態や手術・治療法の3D動画(CG)を無料で提供するもの。宮川氏自身がCGの監修に携わるべく制作会社メディカクラウドを設立し、クラウドシステムの運用管理も併せて行っている。「CG制作コストの高さや著作権・使用権の問題を解消することで、医療系メーカーなどの協力も得やすいビジネスモデルを構築し、医療従事者が自由にCG動画を利用できる環境を実現しました」と、宮川氏は説明する。

これまでに20本以上の動画を公開し、アプリの利用登録者約4900人、動画閲覧回数5万回超の実績をあげている。患者側の反応については、「口頭や冊子、模型での説明よりも理解度が高く、質問内容も濃くなる印象があります」(宮川氏)という。

習志野台整形外科内科では他にも、待ち時間を有意義に過ごしてもらうためのiPadの貸し出し、近隣の病院と連携してCTスキャンやMRIなど診断機器の遠隔モニターとしてiPadを活用するなど、多様な取り組みを進めている。

図 iPad問診票システム



Profile

所在地	千葉県船橋市習志野台2-16-1	診療科目	整形外科、内科、スポーツ整形、リハビリテーション科
設立	2007年		
資本金	200万円		